坂元小だより

鹿児島市立坂元小学校
学　校　だ　よ　り
令和８年　１月号
発行責任者：岩下修一

やってみよう　頑張ってみよう　みんなが笑顔の坂元小

「 子どもたちの間に，優しさの連鎖を 」

校長　岩下　修一

本校は，青少年赤十字に加盟しています。そのことから，昨年夏に，大隅少年自然の家であった日本赤十字社鹿児島県支部主催の「夏季リーダーシップ・トレーニングセンター」（略して「夏季トレセン）に，6年生2名が参加しました。そして，先日，県庁前の赤十字会館であった「一日トレセン」に5年生4名が参加しました。これらの研修会は，赤十字の願いである人道的な価値観を身に付け，行動できる青少年の育成を目指すものです。つまり，子どもたちに「助け合いの心」の育成を図り，「支え合う集団（社会）づくり」について学んでもらうことを目的に開催しているものです。なお，本校では，子どもたちだけではなく，学校現場での指導者養成として教職員2名も研修会に参加しています。

ところで，令和6年度の不登校児童生徒は県内で約5700人，全国で約35万人，いじめ認知は県内で約15000件，全国で約76万件と報道されています。この不登校児童生徒数やいじめ件数の要因は，多岐に渡りますが，子どもたちが学校での生活になじめなかったり，人間関係に悩んだりして，学校へ「行きづらさ」を感じているものと推測できます。そう考えた時，冒頭の青少年赤十字が育もうとしている「助け合いの心」や「支え合う集団づくり」は，今こそ学校において，子どもたちに求められるものだと思います。困っている人に「大丈夫？」と声をかけたり，さりげなく周囲を気遣い行動したりして，児童生徒も教師も同じ方向を向いて，学校の中にある「つらい思い」を軽減できれば，不登校児童生徒や「いじめ」の件数は減少するはずです。そのためには，子どもたちに困っている人の助けになろうという意志と，周囲を注意深く見る「気付く」力が求められます。誰かのちょっとした言葉かけや行動によって勇気をもらったり，安心を感じられたりしたなら，今度は自分が誰かを助ける役割を果たす。このような「優しさの連鎖」を作りたいものです。

このようにして，「優しさの連鎖」がある学校は，学校中が温かい雰囲気で，子どもたちも自分の居場所を感じられるはずです。来年度に向けて，このような学校づくりを一層進めてまいります。保護者や地域の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

【防災への備え＝県支部の資材庫見学の様子】

＊裏面もあります。